

【大石産業】

パルプモウルド成型機の
始動式を開催
山口社長「新たな時代の決意表明」

包装資材の総合メーカーとして、パルプモウルド、フィルム、重包装袋、段ボールの4本の核を有する大石産業㈱(北九州市八幡東区。山口博章社長)は、昨年、パルプモウルド事業部茨城工場(茨城県北茨城市中郷町)内に約23億3000万円を投じて新設備を導入すると発表したが、本年6月2日、計画どおり茨城工場での稼働を開始、その始動式を行った。

高まっている。今回増設した設備内容はパルプモウルド成型機となっており、製品の供給体制の強化及びさらなる拡販を図る。生産目標は、現在のおよそ2倍としている。同社は、パルプモウルド製品及びポリスチレンフィルムにおいては、日本国内でトップクラスのシェアを誇っている。

始動式

始動式は、6月2日(火)、午前9時にスタート。経営陣、社員、スタッフ、協力会社等、約30名が参列した。式は、修祓、降神の儀、献饌、祝詞奏上、切麻散米、始動の儀と続き、最後に山口社長が挨拶を述べた。

山口社長挨拶



昨今の脱プラ・減プラの流れを受け、「脱プラスチック」への対応が急務となっている現在、古紙を原料とする「自然に還る紙製品」であるパルプモウルドの製品需要は年々



「本日よりここ茨城工場で、新たな機械が始動致します。当社は、昨年4月1日に創業

100周年という大きな節目を迎えました。私たちは、100年という歴史を感じながら、今、改めて先人達の努力と、これまで支えて頂いた地域の皆様に感謝致します。

当社のパルプモウルド事業は、1963年、福岡県鞍手郡鞍手町に鞍手モウルド(株)を設立し、スタートしました。そして、1975年には、青森県上北郡下田町に、鞍手モウルド(株)八戸工場を設立。こ

の工場はこの春、設立50周年を迎え、青森県から表彰を受けました。九州から東北へと活動の場を広げ、そして1996年には、ここ茨城に工場を設立しました。

早いもので、30年が経ちます。地域の皆様のご支援を頂きながら、茨城工場は着実に成長しました。その当時に入社したスタッフの思い、この工場に関わってき

が現在に継承できていると思います。

創業100周年を迎えた大石産業の今回のアクションは、次の100年に向けた新たな決意表明でもあります。

最新の設備と、現場で働く社員の技術と真心が結集されたこの工場で、皆様と一緒に新たな一歩を踏み出せることを大変うれしく思います。本日は、ご参列、誠にありがとうございました」



参考

△ 北茨城地区の概要 △

北茨城は昭和 40 年代に、石炭産業からの転換を図るため工業団地の造成を実施し、産炭地の復興を目指し、産業構造の近代化を図ったエリアである。茨城県の北東部にあり、太平洋を望む東京・仙台間のほぼ中間に位置する。東京から 150 km 圏に位置し、JR 常磐線、常磐自動車道ともに

青果物・工業品等の緩衝材として、あるいは段ボール内でクッション材として利用され、近年では脱プラを意識したパッケージとして外装そのものに採用するケースも増えている。コロナ禍でのフード、ドリンクの宅配用にパルプモウルド食品容器が使われ、大きく需要が伸びた。今後、さらなる需要拡大が見込まれている製品である。(日本食品包装機械協会調べ)

約 1 時間 30 分の時間距離、また、茨城空港から東関東自動車道・常磐自動車道で約 1 時間 30 分の距離にある。

パルプモウルドについて

パルプモウルドは新聞・雑誌・段ボール等の古紙を主原料とし、所定の形状の金型により原料を漉き上げ、乾燥させた紙成型品。手抄き和紙の製造方法と似たコンセプトである。一般的には鶏卵・



大石産業パルプモウルド事業部 茨城工場